

第13回JGS宝石シンポジウム in 大阪 「珊瑚～貴重なコレクションから」レポート

日時：平成30年1月17日 水曜日 13:30～17:00

解説：吉本房夫氏（創業130年サンゴ専門パシフィック・コーラル株式会社）、
高田富士夫氏（株式会社 高田寶飾店）

前半は、吉本房夫氏（創業130年サンゴ専門パシフィック・コーラル株式会社）により宝石サンゴについての説明を受けた後、さまざまな種類、産地のサンゴの原木、磨かれたルース、そして組み上がった数珠やジュエリーなどを見せていただいた。サンゴの色調の幅や、産地による素材感の違い、重さや感触、生木と枯れ木の違い、虫食いサンゴの味わいなどを確かめることができた。現在は採れないという「本ボケ」の原木、日本産珊瑚に入っている「フ」が地中海産のものにはみられないこと、まさに静脈に流れる血液のような血赤サ



ンゴの透明感のある深い赤色など、ふだん目にするのが難しい質の高い資料を手に取り実感することができた。このセミナー直前に仕上がったというすべて大玉の赤珊瑚で組まれた本式念珠は実に見事であった。

そして後半は高田富士夫氏（株式会社 高田寶飾店）解説のもと、同社初代 高田野太郎氏の圧巻の珊瑚彫刻コレクションを見せていただく。40点すべてが稀なる素材に執念さえ感じられるような精緻極まりない彫刻が施された珠玉の美術品である。ひとつひとつ息を飲みながら拝見させていただいた。サンゴの肌の艶かしさに魅入られる。これだけのものを一堂に比べながらルーペを当てることができる経験はもうないかもしれない。

素材も技術も次がない、これっきりだという高田氏の言葉が印象に残った。この勉強会を通して、いままで珊瑚のこと、そしてその魅力を全くといっていいほど知らなかったことに気づかされた。本当に良いもの、上質なものに直に接することが、そのものを理解するための近道であることを改めて教えてくれた。珊瑚を堪能し、珊瑚に心動かれた1日でした。

総額5億円にも及ぶという貴重な資料を出し惜しみなく提供して下さった吉本氏、高田氏、そしてこの場を企画して下さった協会の方々に心から感謝いたします。

最後にサンゴについてレクチャーしていただいたことをまとめておく。

<珊瑚について>

珊瑚は、真珠や琥珀とともに、鉱物ではない有機質起源の宝石。古くから真珠と並ぶ海の宝石として人々に愛されて来た。世界的にみても日本がその主な産地である数少ない宝石である。

古くはドイツの旧石器時代（約2万5千年前）の遺跡から珊瑚の玉が発掘されている。日本では奈良時代にシルクロードを経て地中海珊瑚が伝わっていた。江戸時代の後半、土佐沖で良質の宝石珊瑚が採取され、それ以降、土佐（高知県）において採取方法や加工技術が発展・継承されて来た。現在では、日本の宝石珊瑚の製品のほぼ8割が高知で生産されている。

日本国内において採取された宝石サンゴの原木はすべて高知県に集められ、年に4、5回開催される「日本珊瑚商工協同組合」に加盟している組合員によって入札される。

<サンゴの種類>

八放サンゴと六放サンゴ

宝石サンゴは、八放サンゴに属す。これはポリプの触手が8本に分かれていて、太陽の光が届かない深い海（水深100m以上）に生息する硬質のサンゴである。成長は遅い。モース硬度で3.5(人の歯と同等)で磨くと美しい光沢を放つ。一方、サンゴ礁を構成する「六放サンゴ」は、熱帯や亜熱帯の浅く暖かい海に生息し、骨格は小さな穴が開いた軽石状で非常に脆く、宝飾品には適さない。

<宝石サンゴの種類>

赤珊瑚：日本近海、特に土佐湾の水深100～300メートルの海底に棲息する日本固有の品種。深海で生育しているため密度が高く透明感がある。特に土佐沖で採取されるものは世界最高の評価を受ける。特に色合いが濃い場合は「血赤」と呼ばれ最高ランクとされる（英語で「オックス・ブラッド」）。日本産珊瑚の大きな特徴は原木の中心に白い色の「フ」があること。地中海産の赤珊瑚はこの「フ」が見られない。桃色サンゴ：土佐沖・奄美大島・沖縄が世界的主産地。台湾近海でも採取される。水深200～500mで生育。赤に近い色から白に近いピンク色まで色調は幅広い。宝石珊瑚の中で最も大きく成長する。薄いピンク色の均一な色調のものは海外では「エンジェルスキン」日本では「本ボケ」と呼ばれ、高く評価されてきたが、今ではほとんど採取されておらず幻の珊瑚といわれる。色が淡くなると「マガイ」海外では「フェニックス」と呼ばれる。桃色サンゴも赤色サンゴと同じく原木の中心に白い「フ」がある。

白珊瑚：白色が基調とするサンゴ。南シナ海、沖縄近海、五島列島から長崎沖、土佐湾など水深100～400メートルの海底に分布する。純白から乳白色、セピア色までの色調がある。純白のものは産出が少なく貴重。東シナ海で採取される白珊瑚には象牙色をしたものがあり「シナ海」と呼ばれ珍重されている。

地中海珊瑚：「サルジ」「サルジニア」または「胡渡り」と呼ばれ、イタリアはサルジニア島近海の海底約30m-200mの海に生息している。あまり大きくならない。このサンゴは色合いは赤珊瑚に似ているが「フ」はみられず均一な色調をしている。深海サンゴ：深海珊瑚は宝石珊瑚の中でも際立って深い水深1,000メートルを超える深海底で採取される。主産地は太平洋ミッドウェー海域。白色とピンク色が混ざり合う色調。深海から珊瑚が引き上げられることによる急な減圧から「ヒ」と呼ばれるクラック入ることが多い。

黒珊瑚：他の宝石珊瑚とは異なり、六放珊瑚の一種。

<その他>

「生木」：海中で生きていたもの。

「枯れ」：海の中で倒れて死んでいたもの

「虫食い」：枯れて虫に食われたように穴が空いたもの。生木に比べると評価は低いですが、枯れ具合によって独特の味がある。

枯木に比べ生木のほうが磨くと艶がよい。

染め、削り粉を固めたものなどの模造品も製造されているので注意を要する。

以上。